

大学院特別講義

10/7(水)

17:40

3号館3101講義室

*どなたでも聴講できます

花は美しい？

「日本の美」を
疑うためのいけばな論



花は美しい——本当に？

人はいつから花を特別なものとして扱い、そこに意味を見出してきたのか。先史時代の人と花をめぐる議論から、宗教における花の役割、茶の湯・いけばなの成立と展開、そして現代美術との融合まで、人と花の長い関係をたどります。「花の美しさ」と「日本的な美意識」をいったん解体し、私たちはなぜ花を美しいと感じるのか、いけばなに見出されてきた美は本当に普遍的なのかを問いながら、文化によって異なる美のあり方を考えます。



特別講師：

片桐功敦 かたぎりあつのぶ

華道家、花道みささぎ流家元。自ら育てた花などを素材に、伝統的ないけばなから現代美術的なインスタレーションまで幅広く制作。植物と人間の関係を文化人類学的な視点から探究している。国内外で個展を中心に活動し、国際写真展やアートフェスティバルにも参加している。

お問い合わせ先：金島研究室 (kaneshima@kanazawa-bidai.ac.jp)